

令和2年度普及活動検討会（外部評価）実施結果

農 業 技 術 課

第1 目的

本県における協同農業普及事業の実施状況及び普及指導計画に設定した課題の解決に関する進捗状況並びに結果等について、客観的な評価を得て、今後の効率的・効果的な普及活動に反映させる。

第2 評価委員

区分	委員名	所属・役職等
学識経験者	松下 秀介 (委員長)	国立大学法人筑波大学 生命環境系 教授
民間企業	星野 康人	ホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所 代表
マスコミ・消費者	児玉 洋子	日本農業新聞 農政経済部 論説委員
農業関係団体	安田 則夫	J A茨城県中央会 県域営農支援センター センター長
先進的な農業者	浜野 博士	茨城県農業経営士協会 会長
若手・女性農業者	金田 弥生	茨城県女性農業士会 会長

第3 検討・評価内容

1 主要な普及指導計画の評価

・各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターが策定する農業改良普及指導計画書のうち、主要な普及指導計画に定められた成果目標の達成状況について、農業改良普及指導計画書及び普及指導活動実績書（事前にとりまとめた概要書を含む）を評価委員あて提示し、評価を受ける（事例報告実施所属を対象とする）。

2 活動検討会における評価

・茨城県における普及活動の概要及び各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターの普及指導体制と活動事例に対して、検討会での報告をもとに、評価を受ける。

(1) 日時

令和2年11月13日（金）9：45～16：20

(2) 開催場所

農業総合センター 2階 大研修室（笠間市安居3165-1）

(3) 活動事例報告の内容及び箇所

- ア 儲かる農業を実現し、本県農業の未来を担う経営体の育成
農業総合センター専門技術指導員室
- イ 市場出荷型園芸産地における儲かる経営体の育成
県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター
- ウ 「笠間の栗」高付加価値化への変革と経営向上
県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター
- エ 儲かるナシ経営体育成によるナシ産地の活性化
県南農林事務所経営・普及部門（土浦地域農業改良普及センター）
- オ 需要に応じた生産による水田農業経営の安定化
県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

(4) 参集範囲

普及活動検討会評価委員
農業政策課、産地振興課、農業経営課、販売流通課、農林事務所、農業総合センター 等

第4 その他

詳細については、「茨城県普及活動検討会（外部評価）実施要領」及び「令和2年度茨城県普及活動検討会（外部評価）の実施について」に基づき実施する。

第5 主要な普及指導計画の評価結果一覧

所属名	課題番号	課名	課題名	内部評価結果	外部評価結果※						
					A	B	C	D	①内部<外部	②内部=外部	③内部>外部
常陸大宮	大1	全	(共通) 儲かる経営体の育成 ～経営体育成指導活動～	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
	大2	経	(重点) 奥久慈(中山間)地域の儲かる経営体の確保・育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	大3	地域普及課	(重点) 市場出荷型園芸産地における儲かる経営体の育成	B	5	1	0	0	83%	17%	0%
	大4		地域資源を活用した特産品づくりによる経営体の育成(常陸大宮市)	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
	大5		地域資源を活用した特産品づくりによる経営体の育成(大子町)	A	5	1	0	0		83%	17%
	大6		奥久慈地域の水田作・畑作の担い手育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	大7		奥久慈地域の肥育素牛産地における儲かる経営体の育成	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
笠間	笠1	全	(共通) 儲かる経営体の育成 ～経営体育成指導活動～	A	6	0	0	0		100%	0%
	笠2	経営課	(重点) 次世代を担う新規就農者及び青年農業者等の育成・確保	A	6	0	0	0		100%	0%
	笠3	地域普及課	売れる高付加価値農産加工品の開発・販売と経営の向上	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
	笠4		(重点) 「笠間の栗」高付加価値化への変革と経営向上	A	6	0	0	0		100%	0%
	笠5		笠間市における儲かる土地利用型経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	笠6		キクを主体とした儲かる花き経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	笠7		中山間地域における土地利用型経営体の育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	笠8		野菜経営体の育成	A	6	0	0	0		100%	0%
土浦	土1	全	(共通) 儲かる経営体の育成 ～経営体育成指導活動～	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	土2	経	(重点) 地域農業を活性化させる新規就農者の参入支援と経営発展	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
	土3	地域一課	(重点) 全国をリードする収益性の高い持続可能なレンコン経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	土4		果樹産地の活性化による若手経営体の育成	A	5	1	0	0		83%	17%
	土5		地域の水田農業を担う多様な経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	土6		実需者のニーズに応える花き経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	土7		(重点) ナシ産地の活性化による儲かる経営体の育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	土8	地域二課	水田農業を担う大規模経営体の育成と良食味米産地としての評価確立	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	土9		次世代につなぐ高収益キュウリ経営の実現	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
結城	結1	全	(共通) 儲かる農業を実践し、地域農業をけん引する経営体の育成 ～経営体育成指導活動～	A	6	0	0	0		100%	0%
	結2	経営課	(重点) 大規模産地の未来を担うトップリーダーの育成と経営感覚に優れた青年農業者等の確保育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	結3	地域一課	「恵水」等新品種、新技術導入による果樹経営体の育成とナシ産地の維持	A	6	0	0	0		100%	0%
	結4		(重点) 実需者ニーズに着実に応える多品目大規模野菜産地の競争力強化	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	結5		多品目露地野菜経営体の着実な所得向上による経営安定化	A	6	0	0	0		100%	0%
	結6		普通作物の収量・品質向上による儲かる農業の実践	A	6	0	0	0		100%	0%
	結7		(重点) 需要に応じた生産による水田農業経営の安定化	A	4	2	0	0		67%	33%
	結8		21世紀を生き残る施設野菜経営体の強化育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	結9	課	6次産業の推進による地域農業の活性化	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
※評価委員6名のA～D評価個数を数え上げるとともに、①内部評価結果よりも外部評価結果が良かった評価割合、②内部評価結果と外部評価結果が一致した評価割合、③内部評価結果よりも外部評価結果が悪かった評価割合を算出					全体	2%	96%	2%			

※所属名は略称。課名は一部記載を省略(全=全課、経=経営課)

今後の普及活動に反映させたい事項

(経営体育成指導活動)

1 経営指導の水準を高めるため、集合研修やOJTを充実させるとともに、それぞれの活動事例から得られる情報を分析し、「成功・失敗要因の事例分析」として整理し、普及センターにおける経営体育成指導活動のための「道具箱」として活用していくこと。

- ・ いばらき農業アカデミー（リーダー農業経営者育成講座や女性農業経営者育成講座等）については、受講すべき農業者をリストアップした上で積極的に受講を促し、受講後は農業者自らが策定した経営改善計画の目標達成に向けて継続的な支援を行い、アカデミー受講が効果的に経営者マインドの醸成につながるようフォローすること。
- ・ 経営体育成指導活動では、指導対象を明確にしたうえで、経営診断ツールの活用や優良活動事例の共有により、一定水準の支援ができるように努め、普及センターのノウハウが不足する分野については、農業参入等支援センターとの連携により、外部の専門家（中小企業診断士や社会保険労務士等）から必要な支援を受けられるようにすること。
- ・ 指導対象の経営発展を阻む要因やそれらを克服するための工夫等、それぞれの活動事例から得られる情報を分析し、「成功・失敗要因の事例分析」として整理し、普及センターにおける経営体育成指導活動のための「道具箱」として活用していくこと。
- ・ 普及指導員の経営指導力向上に向けて、経営指導に関する集合研修やOJTを充実させるとともに、農業参入等支援センターの専門家（中小企業診断士、社会保険労務士等）による農業者支援の場を活用して指導ノウハウを習得すること。また、さらなる資質向上に向けて、経営者支援に関係の深い資格・免許取得への挑戦を促すこと。
- ・ 新規就農者への支援にあたっては、農業三士との連携による勉強会の実施、いばらき農業アカデミー「経営スタートアップ講座」の活用等により、「経営者マインドを有する人材」としての資質向上を図ること。

(普及活動報告事例から) 常陸大宮

2 地域や産地の担い手や品目生産の将来の姿について農業者や関係機関と共有し、あるべき姿を示す産地ビジョンを策定し、その実現に必要な若手農業者の育成・確保に地域として取り組むこと。

- ・ 地域や産地の担い手や品目生産の将来の姿について農業者や関係機関と共有し、あるべき姿を示す産地ビジョンを策定し、その実現に必要な若手農業者等の育成・確保に地域として取り組むこと。
- ・ 若手農業者の規模拡大による経営発展に向けて、労働力の確保や省力化技術の導入等を支援するとともに、部会リーダーや関係機関と連携して、農地の集積や離農農家の圃場を引き継ぐための仕組みづくりを進めること。
- ・ 感染症の流行による一時的な売上減少等、種々の経営リスクに対応できるよう、新品目の導入、新規商材提案や出荷サイズの多様化等、需要を喚起する取組や販路の拡大を進めていくこと。

(普及活動報告事例から) 笠間

3 果実品質を向上させる新たな貯蔵技術の開発や道の駅（加工施設）の建設等を、従来の一般的な生果実の市場出荷から貯蔵・加工による高付加価値化と高単価差別化販売に移行させる好機ととらえ、関係機関と連携して生産流通体制を刷新するビジョンを作成し、経営者マインドを有する農業者あるいは地域に提案すること。

- ・ くん蒸剤に依存していたクリシギゾウムシ防除については、品質向上とそれによる高単価販売が期待できる冷蔵殺虫技術の導入に努めるとともに、いがの適切な処分等、ほ場環境の改善を図りつつ、総合的な防除対策を進めること。
- ・ 貯蔵期間や包装の有無等、それぞれのクリ品種の特性に最適な貯蔵方法や加工方法を示した「クリ貯蔵マニュアル」を整備し、経営者マインドを有する経営体への指導に活用することで、貯蔵・加工によるクリの高付加価値販売を支援すること。
- ・ 果実品質を向上させる新たな貯蔵技術の開発や道の駅（加工施設）の建設等を、従来の一般的な生果実の市場出荷から貯蔵・加工による高付加価値化と高単価差別化販売に移行させる好機ととらえ、関係機関と連携して生産流通体制を刷新するビジョンを作成し、経営者マインドを有する農業者あるいは地域に提案すること。

(普及活動報告事例から) 土浦

4 地域の果樹生産をリードする担い手を対象に、経営改善が見込める新技術であるジョイント仕立て栽培や新品種「恵水」の導入を進めるなど、「儲かる果樹経営体」の育成に向けた活動に力を入れること。

- ・地域の果樹生産をリードしていく担い手を対象に、経営改善が見込める新技術であるジョイント仕立て栽培や新品種「恵水」の導入を推進するなど、「儲かる果樹経営体」の育成に向けた活動に力を入れること。
- ・生産者や産地全体の意識改革を図る一つ的手段として、差別化商品づくりによる高単価販売等の明確な目標を共有し、新技術（摘心技術等）の導入や厳格な品質基準という高いハードルを掲げて、生産者のやる気を引き出していくこと。
- ・産地間連携による共選共販体制は、有利販売が見込める新品種の導入や差別化商品づくりに有効であるため、儲かるナシ経営体の育成にも寄与できる産地システムとして、高単価で取り引きされる新品種「恵水」等を対象に導入を提案していくこと。
- ・ナシ品種「恵水」の普及に向けて、生産指導（摘果・剪定・苗木育成）により出荷量を確保するとともに、品種導入による経営改善効果を示して苗木導入を推進し、産地における品種定着と早期成園化を図っていくこと。

(普及活動報告事例から) 結城

5 農業者が、米価の下落や自然災害等の経営リスクへの対策を十分に行いつつ、スマート農業技術等を駆使した経営の効率化を推進できるよう、技術・経営指導を行い、「経営者マインドを有する人材の育成」に努めること。

- ・水田農業経営体の育成にあたっては、統計資料や担い手の規模拡大意向等に基づいて地域水田農業の将来の姿を予測し、目指すべき経営規模とその実現に向けた適切な課題設定を行うこと。
- ・高密度播種育苗、乾田直播やスマート農業等の要素技術の普及に当たっては、個々の経営体の実情に応じた経営試算に基づき、効果的な導入支援を行うこと。
- ・規模拡大と作業の効率化に向けた農地の集積・集約にあたっては、市町村や土地改良区等の関係機関と連携した活動を強化していくこと。
- ・持続可能な経営発展に向けて、それぞれの農業者が、米価の下落や自然災害等、想定される経営リスクへの対策を十分に行いつつ、スマート農業技術等を駆使した経営の効率化を推進できるよう、技術・経営指導を行い「経営者マインドを有する人材の育成」に努めること。